

(6) 鉄鋼業 (鉄素形材製造業を除く)

19 / 18 20 / 19 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1) 需要

平成19年の普通鋼鋼材の受注 (内需) は、建設向けで対前年比2.4%増、製造業向けで同比3.4%増、全体計では同比1.5%増の5,726万トンとなった。

平成19年の全鉄鋼輸出は、対前年度比4.7%増の3,685万トンとなった。向け先別にみると中国向けが同比2.3%増、韓国向けが同比9.5%増、とアジア向けを中心に増加。

(2) 生産・設備稼働

平成19年の我が国粗鋼生産量は、高い需要に支えられ、前年比3.2%増の1億2,151万トンと、過去最大の昭和48年度の1億2,017万トンを更新。

平成19年の普通鋼鋼材生産は、同比4.6%増の8,503万トンとなった。一方、特殊鋼鋼材は同比1.7%増の2,040万トンと、平成14年以降6年連続で過去最高を更新した。

普通鋼鋼材の国内在庫は、平成20年3月末で465万トン (在庫率90.1%) と、前年同月比5.4%減となった。

平成19年の鉄鋼生産量については、前記のとおり平成18年比増と堅調に推移したことから、設備稼働率は高水準で推移した。

(3) 企業収益

高炉5社 (連結) 決算状況

(単位 : 億円)

	1 6 年度	1 7 年度	1 8 年度	1 9 年度
売上高	94,095	107,808	117,166	128,930
経常利益	11,815	15,855	16,840	15,776

2 . 設備投資動向 (グラフ 1 参照)

(1) これまでの設備投資の推移

鉄鋼業の設備投資額は、平成19年度実績見込で7,820億円 (18-19共通回答企業57社ベース) と平成18年度実績に比べて1,184億円の増加となっている。近年は、旺盛な鋼材需要を背景に各社が積極的に生産能力増強、更新、維持・補修のための設備投資を行っている。

(2) 平成20年度の設備投資計画

平成20年度設備投資計画額は、7,799億円と平成19年度実績見込と比べて89億円

の増加となっている（19-20共通回答企業57社ベース）。4期ぶりに対前年度比が10%台を切った。

3．長期資金調達・運用動向

長期資金調達については、ほとんどの企業がバランスシート改善を目的とした、社債や株式の償還を進めており、借入額自体は減少の見込み。運用動向は20年度計画では、短期資金へのシフトを見込む。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

